所報

題字：武田満之校長（平成９年、野幌中学校）

第189号　令和7年2月14日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6　TEL381-1058

（主な内容）

・「スポーツ・トライ教室」普及出前授業実施報告
・第２回小学校外国語教育指導連絡協議会実施報告

「スポトラ」普及出前授業実施報告

江別市では、児童生徒の体力向上を目的に、北翔大学の協力を得て、平成 25 年度より「出前教室」を実施してまいりました。今年度（令和６年度）は、昨年度に引き続き、「江別がときめくスポーツにトライ大作戦（通称：スポトラ）」を実施しました。この企画は、春に行われた全国体力・運動能力、運動習慣等調査で明らかになった課題（走力、持久力、投擲力の強化など）を強化項目として各校に提案し、「楽しく学ぶ」をコンセプトにした運動メニューを、遊びの要素を取り入れながら北翔大学の大宮先生が指導しました。

今年度の実施校は、 北光小学校（11/19）、 いずみ野小学校（12/3）、東野幌小学校（12/5）、 江別太小学校（12/10）、 大麻東小学校（12/12）、第一小学校（2/5）の６校で、インフルエンザによる延期は見られましたが、無事に実施することができました。

「スポトラ」出前授業では、児童たちの体力向上を目的に、各校の実態に合わせ下記の 4～5つの運動メニューが実施されました。それぞれの運動は、高い技能を必要とせずに、自分で難度を調整することで、楽しみながら走力や瞬発力、体幹力の強化に挑戦できる内容になっていました。

1）ボールダッシュ
　グループごとにボールを追いかけ、キャッチ後にゴールに運ぶダッシュ練習。走力強化に加えて、走行方向を切り替えることで重心移動の強化も意識した運動。

2）ジャンプ遊び
　瞬発力、持続力、俊敏性、バランス感覚、リズム感を高めるために３種類のジャンプを自由に選んで取り組む、ジャンプ運動。【① ステップ・ジャンプ：長めのステップコースを使って、ボディーバランスとリズム感を養い、持久力の向上を目指す運動。② ハイ・ジャンプ：専用バーでのジャンプを通じ、脚力と瞬発力を強化する運動。子どもたちは自分の能力に合わせた高さに挑戦。③ ロングジャンプ：自分で川幅を指定し、横に飛び越える動きで脚力と瞬発力を強化。】

3）キック＆ダッシュ
　走る運動にキックルパットを蹴る動作を加え、走力と瞬発力の強化を目指す運動。また、ダッシュと

ボールダッシュに取り組む北光小の様子

ハイ・ジャンプに取り組む東野幌小の様子

キック・ダッシュに取り組むいずみ野小の様子

キックの切り替えを通じて、体幹力や運動バランスも強化。特に、走りながらパットを蹴ることで空間認識力や危険回避力の育成も意識した運動。

4）ソフトやりなげ

投擲運動にジャンプを加えた反復運動。子どもたちは大学生とジャンケンをし、勝ったらソフトやり投げを投げ、負けた場合はジャンプゾーンでペナルティとして連続ジャンプを実施。この運動は投げる動作の強化に加え、足の強化とコミュニケーション能力の向上を意識した運動。

ソフトやり投げに取り組む江別太小の様子

令和６年度の「スポトラ」出前授業では、走力、瞬発力、体幹力をはじめとする運動能力の強化を目指した多様なメニューが実施されました。単発的な実践では確かな成果につながっていくことは期待できませんが、紹介して頂いた活動を、継続的に体育授業に取り入れることが、確かな体力向上につながっていくのではないかと感じました。また、授業の最後に一日 10 回のジャンプ運動を継続的に行うことで、確実に走力強化につながっていくと貴重な助言を頂くこともできました。

「第２回　小学校外国語教育指導連絡協議会の報告」

１月２３日（木）に、今年度２回目の小学校外国語教育指導連絡協議会が開催されました。協議会の中で話し合われた内容は、「今年度の事業の反省」と、「次年度の事業計画について」で、事前調査で提出いただいた意見を基に、協議は進められていきました。

今年度の成果としては、２回の交流授業を通して、学習課題を定着させるために体験的な実践や、表現を広げさせるための相談活動を取り入れた授業展開が確立してきていること。課題としては、授業内での担任とＡＬＴの役割分担が明確にさせていくことがあげられました。また、次年度の活動の方向性については、「１：**系統的な教育課程の編成**」、「２：学習内容の定着に向けた書く指導の工夫」、「３：意欲付けにつながる評価の工夫」等の課題解決に向けた対策として、下記のような内容がまとめられていきました。

＜課題解決に向けた次年度の方向性について＞

１　系統的な教育課程の編成に向けての工夫

① 教科書に記載されている学習内容に沿った編成が基本。（中学校が小学校の指導内容を把握していることが前提：小中連携による教育課程の共有）

② 小学校と中学校の身に付けさせるための支援方法の共有がカギ。中ーギャップと言われるような指導格差を生まないようにするためにも、基本的な授業スタイルを確立していく。

２　学習内容の定着のため「書くこと」の指導を充実させる工夫について

① 書くための練習時間を授業に位置づけ

② ノートやワークシートに、アルファベットや基本文型を転写

③ コミュニケーション活動（話す、聞く）と関連づけた書き方指導の強化（発表内容の下書きを授業に位置づけ）

※ 反復学習を中心に定着化

３　児童生徒の意欲化につなげる評価の工夫について

① 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の３観点に基づく評価基準を明確化　→　３観点をどう見とるのかが、工夫のしどころ（市内で共有できる体制）

② 評価で一番難しいのは、パフォーマンステストでの表現の見とり。成功体験は自信＋学習の意欲化にもつながっていく。（失敗体験によって、失敗に負けない強さを身に付けさせることも大切）。発表方法や評価観点の見とり方等、状況に合わせた適切な支援を進めていく。

③ 意欲的な活動につなげていくためには、指導と評価の一体化が最重要となってくる。指導と評価が一体となる授業改革を意識して進めていく。